

各関係機関団体の長 } 殿
各病虫害防除員 }

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

平成28年度病虫害発生予報第3号(6月)について

このことについて、病虫害発生予報第3号を発表したので送付します。

予報第3号

茶のもち病に注意を!

5月5半旬調査の結果、昨年多発したもち病が山間地から平坦地にかけて広域に発生しています(1㎡当たり病葉数:本年4.5葉、平年0.2葉、発生ほ場率:本年57.1%、平年8.3%)。もち病は新葉に発生するため、収量・品質に大きく影響します。防除適期は二番茶の萌芽〜一葉期前です。茶園ごとの発生状況に応じて適期防除して下さい。

また、日当り・通風を良くする等の発病しにくい茶園管理にも努めましょう。



もち病

<予想される向こう1か月の天候(平成28年5月28日~平成28年6月27日)>

期間のはじめは天気は数日の周期で変わりますが、その後は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並みか多く、日照時間はほぼ平年並でしょう。

週別の気温は、1週目は平年並か高く、2週目は平年より高く、3~4週目は平年並か高いでしょう。

向こう1か月の気温・降水量・日照時間(数値は予想される出現確率)

	平均気温	降水量	日照時間
九州北部地方	低20 並30 高50% 高い見込み	少20 並40 多40% 平年並か多い見込み	少30 並40 多30% ほぼ平年並の見込み

(福岡管区气象台 平成28年5月26日発表抜粋)

6月における主な病害虫の発生動向は、次のように予想されます。

主な病害虫の発生予報概要

作物名	病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (6月の発生予報)	
		平年比	平年比	前年比
カンキツ	そうか病	やや少	並	並
ナシ	黒星病	多	多	並
カキ	炭疽病	並	並	多
	フジコナカイガラムシ	並	並	やや少
果樹共通	チャバネアオカメムシ	並	—	並
茶	炭疽病	多	多	やや少
	カンザワハダニ	やや多	並	やや多

*果樹共通・チャバネアオカメムシの平年比について、現況は年次変動が大きいため前年比としている

作物別発生予報

注1) 予報の発生量は平年（福岡県の過去10年間）及び参考として前年との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。

注2) 予報の根拠には、巡回調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生状況、気象予報からみた病害虫の発生条件を必要に応じて記載しています。

それぞれの条件は、少発生（－）、やや少発生（－～±）、並発生（±）、やや多発生（±～＋）、多発生（＋）として示し、＋－を総合的に判断して発生量を予想しています。

【果樹：かんきつ】

1 そうか病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査の結果、発生量は平年よりやや少なかった（－～±）。

発病葉率 0.2%（平年 0.3%、前年 0%）

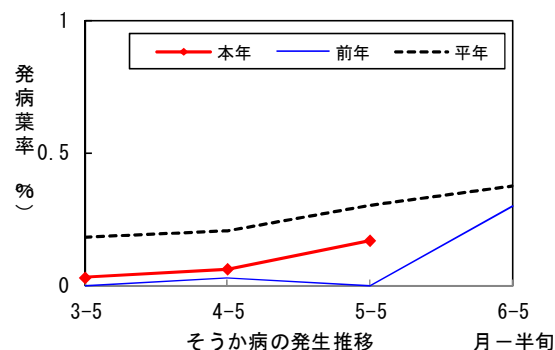
発生ほ場率 10.0%（平年 24.8%、前年 0%）

イ 向こう1か月の気象予報では、やや多発生の条件となっている（±～＋）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 伝染源となる罹病葉を除去し、幼果期の防除を徹底する。

イ 農薬の使用及び散布等にあたっては、p 6の内容を確認の上、適切に実施する（以下の病害虫についても同様）。



【果樹：なし】

1 黒星病

(1) 予報の内容

発生量：平年より多、前年並

平成28年5月30日付け28農林試第1020号技術情報第4号参照。

【果樹：かき】

1 炭疽病

(1) 予報の内容

発生量：平年並、前年より多

(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

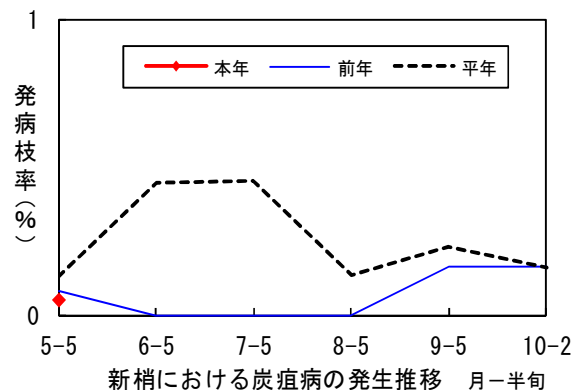
発病枝率 0.06% (平年 0.13%、前年 0.08%)

発生ほ場率 16.7% (平年 9.1%、前年 8.3%)

イ 向こう1か月の気象予報では、やや多発生の条件となっている(±~+)。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 伝染源となる罹病枝や罹病果は、見つけ次第園外に持ち出し処分する。



2 フジコナカイガラムシ

(1) 予報の内容

発生量：平年並、前年よりやや少

(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

寄生枝率 0.9% (平年 2.0%、前年 2.9%)

発生ほ場率 66.7% (平年 47.8%、前年 66.7%)

イ 向こう1か月の気象予報では、並発生の条件となっている(±)。

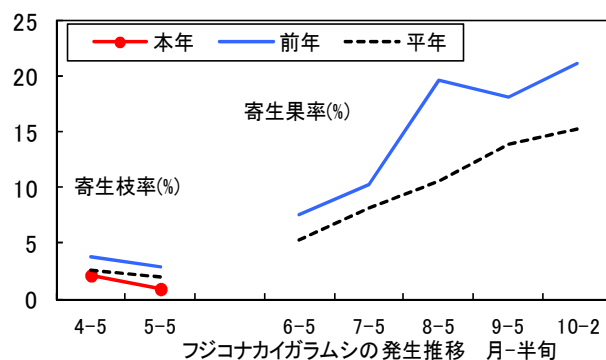
(3) 防除上注意すべき事項

ア 第1世代幼虫の孵化時期(6月上旬~中旬)に約10日間隔で2回防除を実施する。

イ 薬剤がかかりにくい部位に寄生しているので、散布むらがないよう丁寧に散布する。

ウ 天敵への影響が比較的少ない薬剤で防除する。防除対策の詳細は、県ホームページに掲載している『病害虫・雑草防除の手引き』を参考にしてください。

URL: http://www.pref.fukuoka.lg.jp/uploaded/life/203227_51694561_misc.pdf



【果樹共通：チャバネアオカメムシ】

(1) 予報の内容

発生量：前年並、前々年より少

(2) 予報の根拠

ア チャバネアオカメムシの1㎡当たりの越冬量は平均0.8頭(前年0.9頭、前々年4.8頭)で、前年並であった(±)。

イ 5月1半旬~4半旬までのフェロモントラップによる誘殺虫数は、192頭(前年70頭、前々年2,393頭)(調査地点：筑紫野市)で前年並であった(±)。

(3) 防除上注意すべき事項

ア カメムシ類は夜温が高くなると活動が活発になるので、気温の推移や地域の予察灯の誘殺状況を確認する。

イ ウメ、モモ、スモモ、ナシ、カンキツ等では、園内の発生状況の把握に努め発生に応じて防除を行う。

【果樹：その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (6月の発生予報)		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
かんきつ アブラムシ類	やや少	少	並	・適期防除を心掛ける。
ミカンハダニ	並	並	並	
なし アブラムシ類	少	少	やや少	・薬剤感受性の低下をさけるため、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。
ハダニ類	並	並	並	
かき ハマキムシ類	やや少	やや少	やや少	・ハマキムシ類幼虫は葉と葉が重なった部分や、ヘタと果実の間に多く潜んでいるため、薬剤はかかりムラがないよう十分量を丁寧に散布する。

【茶】

1 炭疽病

(1) 予報の内容

発生量：平年より多、前年よりやや少

(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査の結果、発生量は平年より多かった(+)。

発病葉数 1.2葉 (平年0.4葉、前年2.6葉)

発生ほ場率 28.6% (平年21.1%、前年100%)

イ 向こう1か月の気象予報では、やや多発生の条件となっている(±~+)。

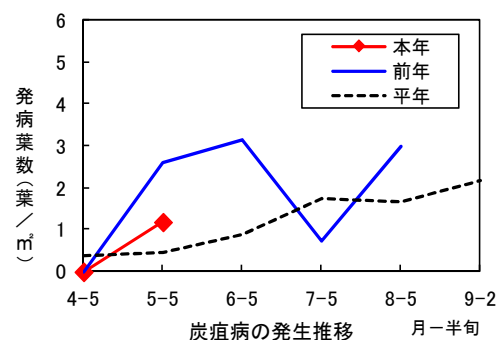
(3) 防除上注意すべき事項

ア 一番茶摘採後の残葉での発生に注意し、二番茶の萌芽から1葉期までに防除を行う。

イ 雨滴により胞子が飛散伝搬するので、降雨前の防除効果が高い。

ウ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

エ 農薬の使用及び散布等にあたっては、p6の内容を確認の上、適切に実施する(以下の病害虫についても同様)。



2 カンザワハダニ

(1) 予報の内容

発生量：平年並、前年よりやや多

(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査の結果、平年よりやや多かった(±~+)。

寄生葉率 7.7% (平年5.7%、前年0.3%)

50葉当たり虫数 20.6頭 (平年11.4頭、前年0.1頭)

発生ほ場率 71.4% (平年46.1%、前年12.5%)

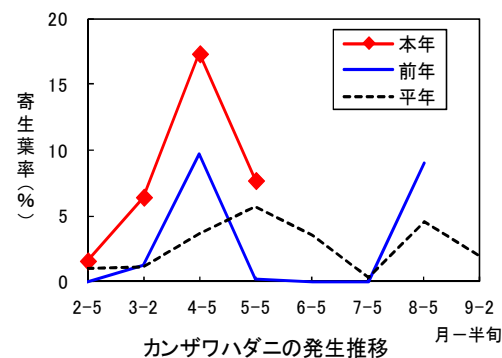
イ 向こう1か月の気象予報では、やや少発生の条件となっている(-~±)。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 裾葉を中心に発生状況をよく観察し、成虫の寄生葉率が2%以上である場合は、成虫、幼虫、卵に効果の高い薬剤で速やかに防除を行う。

イ 薬剤は、寄生の多い裾葉・葉裏に十分かかるよう丁寧に散布する。

ウ 同一系統薬剤の連続散布を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



【茶：その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (6月の発生予報)		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
もち病	多	多	並	・一番茶摘採後の残葉での発生に注意し、2番茶の萌芽から1葉期前までに防除を行う。
チャノキイロアザミウマ	やや少	やや少	やや多	・発生状況に注意し、たたき落とし（B5判上）で10頭以上発生している場合は防除を行う。 ・二番茶の萌芽から開葉期を重点に防除する。
チャノミドリヒメヨコバイ	並	並	並	・発生状況に注意し、たたき落とし（B5判上）で4頭以上発生している場合は防除を行う。 ・二番茶の萌芽から開葉期を重点に防除する。
チャノコカクモンハマキ	並	並	並	・第1世代成虫の発蛾最盛期は、6月中～下旬頃と予想されるので、ほ場での成虫の発生に注意し、成虫が最も多いときから7日後を目安に防除を行う。 ・巻葉後は防除効果が劣るため、巻葉が見られたら直ちに防除を行う。
チャトゲコナジラミ	やや少	やや少	並	・チャトゲコナジラミは年3～4回発生し、防除適期は若齢幼虫発生期で、親世代成虫の発生が収まった頃である。配信される技術情報や茶園での成虫の発生状況に注意して防除に努める。 ・幼虫は葉裏に寄生しているので、農薬の散布にあたっては、葉裏に十分にかかるように丁寧に散布する。

農薬の安全・適正使用、飛散防止対策の徹底を！

福岡県では、農薬の安全かつ適正な使用及び保管管理、使用現場における周辺への配慮を周知徹底するとともに、農薬による事故防止を目的として、安全使用講習会の開催や啓発チラシの配布等を関係機関、団体と一体となって取り組んでいます。

使用者の安全はもちろん、人畜・隣接作物・河川等への配慮について、ご指導をお願いします。

1 農薬適正使用の徹底

○適用作物、使用量や濃度、使用時期、総使用回数などが記載されたラベルをよく確認し、使用基準を遵守する。

※農薬の種類によっては、登録の内容がメーカーによって異なるので、ラベルをよく確認する。

(例：スミチオン水和剤40は、メーカーによって適用作物名や適用病害虫名が異なる)

○有効期限切れの農薬は使用せずに、産業廃棄物として処分する。

2 飛散防止対策の徹底

○風の弱い時に散布する。

○風向、散布方向、散布時間、散布圧などに留意する。

○飛散しにくい農薬（剤型）や飛散が少ないドリフト低減ノズルを使用する。

○散布ほ場周辺の収穫前の作物には十分注意する。

3 保護具の着用

○農薬の散布時には、ラベルの注意・警告マークをよく確認し、マスク、保護メガネ、ゴム手袋等を着用する。

4 農薬の散布後は、必ず散布器具を洗浄

○噴霧器、薬液タンク、ホースなどの散布器具を十分に洗浄する。

5 防除履歴の記帳

○農薬の散布が終わったら、作物名、ほ場の場所、使用年月日、薬剤名、使用濃度、使用量等を正確に記帳する。

6 空容器の処分

○空容器は、産業廃棄物処理業者に委託するなど、適切な処分を行う。

また、野焼きは法令で禁止されているので行わない。

福岡県病害虫防除所ではQRコードを作成しました。
携帯電話のQRコードリーダーでスキャンして頂くと病害虫防除所ホームページに簡単にアクセスできますので、御利用下さい。



福岡県病害虫防除所